

# 令和6年度「将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業」 オホーツク文化を核とした「オホーツク遺跡街道」構想事業報告書（概要版）

## 本年度業務の目的

オホーツク文化は今から千年以上も昔に、オホーツク海沿岸を中心に栄えた文化である。このオホーツク文化を観光資源として活用することを目的に、令和5年度事業において「オホーツク遺跡街道構想」が作成された。  
令和6年度は、同構想にもとづいたオホーツク遺跡街道形成の推進に向けて、「地域向けセミナーの開催」、「ツアー造成に向けたワークショップ及び現地調査」、「情報拠点充実に向けた調査」、「推進ネットワークの開催及び構成員の拡大」を実施するものである。

## オホーツク遺跡街道構想とは？

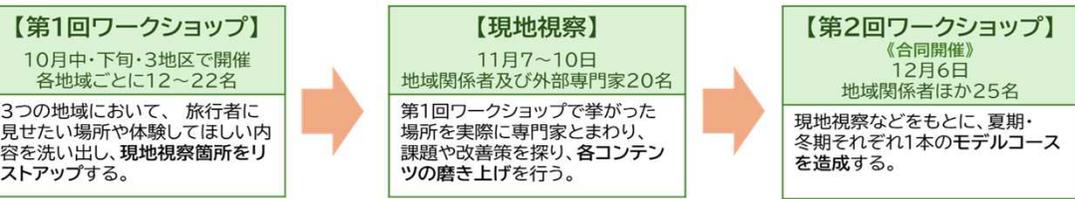
オホーツク文化をはじめとした、この地域の歴史・文化を体感できる面的な観光エリアである「オホーツク遺跡街道」の形成に向けて、地域の関係者が取り組むべき方向性をまとめたもの。本構想のもと、先人の自然観や文化的な感性、食文化などが、現在の観光振興に活かされ、オホーツク地域が「街道」を通してひとつになり、活性化することを目指している。

## ワークショップ・セミナー・現地視察の実施

<b>【セミナー】</b> 10月中旬・下旬 各地域ごとに12～24名	<b>◆ 参加対象者</b> ネットワーク構成員および観光関連事業者 （宿泊事業者、アクティビティ事業者、飲食店、土産物店等）
<b>『観光関連事業者』が、オホーツク文化を始めとする、この地域の歴史・風土に関する理解を促進し、観光活用の可能性を考える場とする。</b>	<b>セミナー</b> ネットワーク構成員および観光関連事業者 （宿泊事業者、アクティビティ事業者、飲食店、土産物店等）
<b>『観光関連事業者』が、オホーツク文化を始めとする、この地域の歴史・風土に関する理解を促進し、観光活用の可能性を考える場とする。</b>	<b>ワークショップ</b> セミナー参加者から各地域と相談のうえ選出
<b>『観光関連事業者』が、オホーツク文化を始めとする、この地域の歴史・風土に関する理解を促進し、観光活用の可能性を考える場とする。</b>	<b>現地視察</b> ワークショップ参加者から各地域と相談のうえ選出



注）事務局が、各参加対象者をリストアップのうえ、各地域と協議  
\*参加者への声掛け・依頼作業は各地域と相談のうえ確定



**ポイント**  
造成するモデルコースは「オホーツク遺跡街道構想」に則った内容とする。

- オホーツクの人々が長い年月にわたり紡いできた文化と生命のつながりにふれる。
- 流水やオホーツク海が生み出した豊かな海の幸を中心とした食文化にふれる。
- 地域の人々との交流により、オホーツク文化の“今”にふれる。

## 第1回ワークショップ・セミナーの概要

	実施区分	内容	講師等
北見市開催	セミナー	どろ遺跡の館の案内・説明 竪穴住居跡の案内・説明 講演1.常呂遺跡のすこいところ 講演2.「遺跡旅」を楽しむ 【テーマ】(3市共通)	どろ遺跡の館 学芸員 中村雄紀氏 同上 北の縄文道民会議事務局長 戎谷 侑男氏 ◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(戎谷氏、田才氏)
	ワークショップ	旅行者に見せたい場所や体験してほしい内容をリストアップ ●各グループ発表	◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(戎谷氏、田才氏)
網走市開催	セミナー	モロコ貝塚館の案内・説明 史跡 モロコの案内・説明 講演.外国人に伝わる観光案内 【テーマ】(3市共通)	網走市郷土博物館 学芸員 梅田広大氏 M's Englis 代表 馬上 千恵氏 ◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(馬上氏、田才氏)
	ワークショップ	旅行者に見せたい場所や体験してほしい内容をリストアップ ●各グループ発表	◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(馬上氏、田才氏)
紋別市開催	セミナー	オムサロ遺跡公園/竪穴住居跡の案内・説明 講演1.観光素材としての「紋別市立博物館」の活用(展示説明など) 講演2.オホーツクの魅力を周知するために 【テーマ】(3市共通)	紋別市立博物館 学芸員 佐藤実祐氏、小林健一氏 ZERO-PLANNING代表取締役 増井 浄美氏 ◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(増井氏、田才氏)
	ワークショップ	旅行者に見せたい場所や体験してほしい内容をリストアップ ●各グループ発表	◆総合司会(事務局) ◆ファシリテーター(事務局) ◆アドバイザー(増井氏、田才氏)



## 現地視察調査の訪問先と体験内容等

	日付	スケジュール	宿泊先
1	11月7日	道の駅流水街道網走 集合 ⇒ ノースプレインファーム<昼食> ⇒ オホーツクミュージアムえさし <博物館見学> オムサロ竪穴住居群視察 ⇒ 沙留岬(オホーツク文化遺跡埋蔵地視察) ⇒ 興部町沙留漁港見学 ⇒ オホーツクの海・食文化体験 <未利用魚の活用を学ぶ> ⇒ 鴻之舞金山 ⇒ 江面ファーム ⇒ 遠軽町埋蔵文化財センター	紋別セントラル ホテル
2	11月8日	ワッカネイチャーセンター <遺跡めぐりサイクリングを体験> ⇒ 常呂カーリングホール レストハウスとこ ろ(昼食) ⇒ 土器づくり体験 <モロコ貝塚館> ⇒ モロコ鍋を囲んでの交流会<居酒屋「喜八」>	サロマ湖鶴雅リ ゾート
3	11月9日	市内その他視察ポイント見学(二つ岩など) ⇒ 北方民族資料館	ドリーミン網走
4	11月10日		



## 第2回ワークショップの開催

第1回ワークショップ・セミナー及び現地視察調査の結果を踏まえ、第2回ワークショップで夏及び冬の具体的なモデルコース案を作成した。(3グループで計6コースを作成)

Aグループ	関西圏をターゲットにした夏ツアーと、富裕層向けの冬ツアーを提案。
Bグループ	「一度は訪れたいオホーツク街道—大人の修学旅行」と題し、関東の中高生層や知識を求める若者をターゲットに、学びと観光を兼ねたツアーを提案。
Cグループ	欧米人向けの夏のツアー「The SPIRIT OF OKHOTSUK」と冬のツアー「OKHOTSUK WINTER WONDERLAND」提案

## モデルコースの造成

第2回ワークショップで作成したモデルコース案を事務局で再構成し、今後のツアー造成につながる夏期及び冬期の代表的なモデルコース案を各1案作成した。

- ツアー名**  
「オホーツク歴史紀行—流水の海と古代文化」
- ツアー趣旨**  
・遺跡や博物館を巡り、オホーツク地域特有の文化であるオホーツク文化をはじめとした文化・歴史を学ぶことに加え、オホーツク文化の特徴である食を堪能する。また、地域住民との交流や体験活動を通して、当地域における現在の暮らしや、地域で引き継がれてきた精神性に触れる。
- 主なターゲット(夏冬共通)**  
・首都圏、関西圏の歴史に関心が高い、比較的時間と金銭的な余裕のある層
- 各モデルコースの特徴**  
(夏編)「オホーツク歴史紀行(夏編)—流水の海と古代文化」  
・サロマ湖周辺で、遺跡巡りとサイクリングを同時に楽しむ。  
・土器作り体験やファーム見学において、地域住民と交流し、地域の生活ぶりや魅力を知る。  
・未利用魚ランチ・クジラ料理・モロコ鍋など、古くから当地域の生活に欠かせないオホーツク海ならではの海鮮を楽しむ。  
・最終日は、2つの空港を選択できるオプションコースを用意  
(冬編)「オホーツク歴史紀行(冬編)—流水の海と古代文化」  
・流水クルーズで、オホーツク文化人の生活の舞台であったオホーツク海および流水を満喫する。  
・ワカサギ釣りやハンティングツアーで、地域住民と交流し、自然と共生する精神性に触れる。  
・貝汁・モロコ鍋など、オホーツク文化と関わり深い料理を楽しむ。

夏期モデルコースの訪問地、コース

## 情報拠点充実に向けた調査

オホーツク文化等に関する地域全体としての効果的な情報発信を行うため、複数の施設について情報発信の現状を調査するとともに、その課題を明らかにし、情報拠点充実に向けた方向性を提案した。  
また、常呂地区にある空き施設について、情報拠点施設として整備する場合の概略設計を行った。

### <各地域で効果的と考えられる情報発信>

<b>網走市</b> ・各博物館におけるオホーツク文化の紹介拡大、体験観光の充実 ・オホーツク流水館及び道の駅におけるオホーツク文化の紹介コーナーの充実、関連グッズの開発・販売促進 ・流水クルーズ、アドベンチャーツアーの重要コンテンツとし、オホーツク文化をアピール。	<b>北見市</b> ・遺跡の森・遺跡の館等におけるオホーツク文化の紹介拡大、体験観光の充実 ・常呂地区における観光交流拠点整備による休憩・案内機能の充実 ・博物館及びこの拠点を核とした遺跡ガイドツアーや遺跡めぐりサイクリングなどを展開	<b>紋別市</b> ・市立博物館におけるオホーツク文化の紹介拡大 ・流水科学館、道の駅におけるオホーツク文化関連情報の充実 ・オムサロビューハウスにおけるオホーツク文化の紹介や案内の充実 ・沙留岬をオホーツク文化を感じる屋外拠点の一つに整備
--	---	---